



楽しく子育て!

～香川県立図書館 子育て支援コーナー通信～

第165号

発行日

2021年5月19日

毎月19日は、「かがわ育児の日」

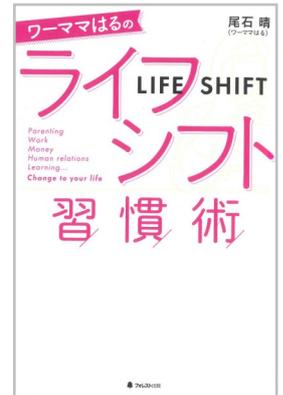
★司書のオススメ本～5月の新着図書から～

『ワーママはるのライフシフト習慣術』

尾石 晴/著 フォレスト出版/刊 2021.4

人生100年時代になると、「教育→仕事→引退」という人生の典型的パターンは崩れて、多様な人生へと変化していくとのこと。私たちは、そんな時代に向けて、何を準備していけばよいのでしょうか。

すでに複数のキャリアを持ち、多様な人生を歩んでいる著者が、自身の経験を交えながら、「仕事」「人間関係」「子育て」「お金」「学び」に関する思考&実践法をわかりやすく紹介しています。



『子どものおしゃれなアップパップ 1日でぬえる!簡単楽ちんワンピース』

Quoi?Quoi?/著 主婦の友社/刊 2021.5

「アップパップ」とは「かぶって着られるワンピース」のことです。掲載されている作品は、ファスナーつけやボタンホールがなく、縫うのがラクなうえに、子どもにも簡単に脱ぎ着ができ、着心地がとてもよいものがほとんどなのだそう。

これなら、お裁縫に慣れていない方でも気軽に挑戦できそうですね。



<5月の新着図書～新しくこんな図書が入りました～> () は棚番号と内容です。

(支援1-1 家族関係)

・『3人で親になってみた ママとパパ、ときどきゴンちゃん』
杉山 文野/著 毎日新聞出版/刊

(支援2-2 子どもの食事)

・『顔ごはんと顔おやつ みんな笑顔で、いただきます!』
ぺろり/著 小学館/刊

(支援3-1 叱り方・ほめ方)

・『小学生の子の学力を「ほめる・叱る」で伸ばすコツ』
菊池 洋匡/著 実務教育出版/刊

(支援3-1 コミュニケーション)

・『イライラ・ガミガミしないママになれる本』
水野 優子/著 秀和システム/刊

(支援3-2 子育てヒント)

・『「自分が好きな子」になる子育て』
宮本 覚道/著 現代書林/刊

(支援4-2 子どもと遊ぼう)

・『おそとで楽しむ遊びのワンダーランド ベスト42』
木村 研/著 いかだ社/刊

(支援4-5 学力)

・『音読教室 現役アナウンサーが教える教科書を読んで言葉を楽しむテクニック』
堀井 美香/著 カンゼン/刊

(支援5-2 家庭教育)

・『子どもの才能を伸ばすモンテッソーリ教具100』
藤崎 達宏, 伊藤 あづさ/著 三笠書房/刊

(支援5-3 性教育)

・『乳幼児期の性教育ハンドブック』
浅井 春夫/[ほか]編著 かがわ出版/刊

(支援5-4 体力)

・『動きがよくなる小学生の体幹ハイパートレーニング』
澤木 一貴/著 ベースボール・マガジン社/刊

●県立図書館の子育て支援コーナーの図書は、県内のお近くの市町図書館等から取り寄せができます。詳しくはお近くの公共図書館へご相談ください。

季節のお役立ち本 ～お家の中でできる遊びの本～

気づけば、5月も後半。梅雨の季節が近づいて来ていますね。今年もコロナウイルスの感染予防で、ゴールデンウィークのお出かけは控えていたというご家庭も多いと思います。そして、これからしばらくは、天気が悪くてできることが限定されてしまいますが、そんなときにも、家族で一緒に過ごす時間を楽しめたらいいですね！

今回は、お家の中で子どもと一緒にできる遊びのヒントになる本を紹介します。



『とことん紙皿レシピ』 野出 正和／著 チャイルド社／刊

著者は、TOYクリエイター。本書には、作る行程が楽しめ、子どものひらめきを大切にする工作として、年少から小学校低学年くらいのお子さん向けの紙皿を使った工作22種が紹介されています。もちろん、ピンポンキャッチャー、ふきごま、わなげ、楽器など、作った後も楽しめる工作もありますよ。他の材料でも、もっと作りたいという方には、同じシリーズで、『とことん紙コップレシピ』、『とことんラッピングあそび』もあります。

●子育て支援コーナー棚番号4-2(子どもと遊ぼう)には、他にもこんな本があります。

- ・『困ったときのおへやあそび』 近藤 理恵／著 かもがわ出版／刊
- ・『ふきさんのアイデアおもちゃ大百科 ひらめいた!遊びのレシピ』 佐藤 露／著 偕成社／刊
- ・『超★簡単楽器づくり 親子で!おうちで!さくっとできる!』
井上 明美／著 ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス／刊
- ・『あそびのたねずかん』 東京学芸大こども未来研究所／著 東京書籍／刊
- ・『キッチンサイエンスラボ 親子で楽しむ52の科学体験』
Liz Lee Heinecke／著 オライリー・ジャパン／刊



<子育て支援担当より>

最近、我が家の息子は、4月のクラス替えで、環境が変わったせいもあり、楽しくないので学校には行きたくないと言っています。それを聞いた大人のほとんどが、「学校は行くのがあたりまえだ。自分の時はそうだった。それは我がままだ。」と言うと思います。でも、今の子どもの世界は、私たちが子どもだった頃とは違い、いろいろなことが複雑になり、子どもたちは生きづらくなっているのではないかと思います。息子の今に寄り添ってサポートしていきたいと思っています。